

平成23年度 学校評価結果報告書

小松市立中海小学校

	自己評価				学校関係者評価		次年度の方向（改善計画等）
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況	達成状況	学校関係者評価者による意見	
① 組織的な学校運営	（組織的・機能的な学校運営） 校長の学校経営構想のもとで、各主任を核とした組織的・機能的な学校運営を行う。	【努力指標】 運営委員会を定期的に開催し、諸課題の解決に努める。	運営委員会を A: 定期的に有効に開催できた B: 定期的に開催できた C: 開催できないこともあった D: 十分に開催できなかった	運営委員会の内容と方法は毎回事前に検討され、改善が図られた。今後とも効率、能率の良い運営委員会を目指したい。	B	有効に運営出来ているのではないだろうか。児童アンケートの結果に「子どもが学校へ行くのが楽しい」と答えた児童が多いうことがその証と言えるのではないだろうか。	・運営内容・方法の検討協議内容の精選等、効率的運用は毎回事前に検討できた。 2学期以降は効率化に走りすぎたきらいがあり、性急な改善は熟慮の上の配慮が必要であった。
	（学校経営構想の具現化） 各主任を中心に、校務分掌の年間計画を作成し実施する。	【成果指標】 児童の生き生きとした様子でそれぞれの活動を協議実践する。	各部の年間計画を A:十分に実践できた B:実践できた C:あまりできなかった D:できなかった	運営委員会の改善と合わせ、各部会でも活動実践の改善を進めることができた。	B		
② 確かな学力の育成	（基礎・基本の学力の定着） 読み・書き・計算の基本をしっかり定着させ、わかる授業の実践に努める。	【成果指標】 国語科・算数科の基礎・基本が8割以上でできる子が80%を超えるようにする。	基礎・基本の定着度が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	基礎基本の定着はわずかづつではあるが成果が見られる。今後とも継続の予定。	B	基礎基本の定着、授業実践の積み上げとも、教職員の努力を認める。今後とも確かな学力の向上に尽力してほしい。	・確かな学力の向上学力向上プログラムを参考に本校児童に沿ったものの実践を積み上げている。日々の授業ではポイントを絞った授業改善が順調に進捗しており、さらに継続して行きたい。
	（考える力の育成） 「学び合う子」の育成をめざして授業実践に努める。	【努力指標】 単元の終わりに振り返りを書かせ、子どもとともに変容をみとめる授業を学期に3回以上行う。	子どもとともに変容をみとめる授業を学期に A: 全単元 B: 3回以上 C: 1回以上 D: できなかった	本年度は項目、指標、基準を変更し、子どもの変容をみとめることに努めている。	B		
③ 豊かな心の育成	（集団生活力の育成） 集団生活に必要なきまりや約束を守る指導を適切に行う。	【満足度指標】 明るく進んで元気にあいさつをし、きまりや約束を守って生活できた。	進んであいさつをできた児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童会運営委員会を中心にあいさつ運動を行った。（12月）86,7%	B	子どものあいさつの姿に「豊かな心の育成」が象徴される。家庭と連携しながら児童会やたてわり活動でも成果を上げつつある。特にたてわり活動は一人遊びが増えている昨今、重要な取り組みである。「豊かな心の育成」は子どもの健全育成に重要な項目でもあるので、継続して行うことが大切であり、学校の取り組みは評価に値する。	・集団生活力、思いやりのある子、たてわり活動についてはそれぞれ一部に落ちる学年があった。事前指導・事後指導のポイントを明示し、めあてをもって活動に取り組み振り返りの時間をとることで、達成感や充実感をもたせることにした。 ・学級での豊かな人間関係づくりに関して、全学年がエンカウンターを取り入れた授業に取り組みしたが、十分という評価ではなかった。具体的な取り組みを交流する場を設けていきたい。
	（思いやりのある子の育成） 自然ともに認め合い、学校へ来ることが楽しいと感じる子どもを育てる。	【満足度指標】 学校へ来ることが楽しいと感じる子が8割以上になるように努める。	楽しいと感じている児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート結果（7月）88%（12月）90%	A		
	（たてわり活動による豊かな人間関係づくり） 異年齢集団による活動を通して、学年の枠を超えた人間関係に気づかせ広げる手立てを行う。	【満足度指標】 学年に応じた目的で楽しく活動しながら、異学年のよさや様々な見方、考え方があふれることに気づくことができる。	交流の楽しさを感じた児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート結果（7月）88.5% 高学年にマイナス思考が若干見られた。（12月）83, 3%	B		
	（学級での豊かな人間関係づくり） 学級活動を計画的に行うと共に、エンカウンター等の活用を図り、人間関係づくりを推進する。	【努力指標】 計画的な学級活動運営やエンカウンター等を取り入れた人間関係づくりに取り組む。	人間関係づくりの取り組みが A: 十分できている B: ほぼできている C: 十分とはいえない D: 不十分である	学級活動年間計画の変更はあったが、全学年で取り組むことができた。	B		
	（道徳教育の充実） すべての教育活動との関連が図られた全体計画・指導計画のもと、道徳の時間を要した道徳教育を行う。	【成果指標】 指導の内容を工夫した授業を、どの学年も学期に2回以上行う。	内容を工夫した授業を学期に A: 3回以上行った B: 2回行った C: 1回行った D: できなかった	計画通り進捗中	B		
④ 健やかな体の育成	（たくましい体の育成） 体育科や特別活動での体育的活動を通して、スポーツや体を動かすことの楽しさを知る。	【努力指標】 各体育カードを活用したり校内各種大会に取り組む。	体育カードの活用や校内各種大会に A: 十分に取り組んでいる B: 取り組んでいる C: あまり取り組んでいない D: 取り組んでいない	2年生を中心に8の字跳びのスポチャレに取り組んだことが、全体の力を上げることに繋がった。	B	スポチャレ等を積極的に取り組むことは大変良いことである。虫歯治療率は県表彰を受けるなど大変良い結果となっているが、他の診療科でも受診率が伸びて欲しい。	・今年度から健康教育において、「診療カードの受診率」が健康に対する意識の向上を啓発したい。数値化できているので、来年度も同じ項目で継続して行いたい。
	（健康教育） 自らの健康に興味や関心を持つ児童の育成に努める。	【努力指標】 自らの健康に興味を持ち健康的な生活を送れるように努めている。	診療カードの受診率が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	診療施設、医療機関まで遠いため、例年受診率に伸び悩みがある。歯の治療率は良い状況にある。	B		
⑤ 家庭・地域との連携	（基本的な生活の確立） 家庭と連携して早寝・早起き・朝ごはん運動を推進する。	【努力指標】 早寝・早起き・朝ごはんが実行できている子を9割以上にする。	早寝・早起き・朝ごはんが実行できている児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート結果（7月・12月比較）はデータは向上している。保護者と児童の結果に差がある。	B	児童アンケート結果による「毎朝、朝ごはんを食べる」が100%はすごい。家庭学習時間の向上をはじめ、家庭への啓発もよく行われている。スキー教室の講師が年々増えていることにあるように、地域の豊かな人材をもっと活用し、家庭・地域と連携しながら教育活動を行ってほしい。「読書」は基礎学力の向上にもつながる。アンケートや学校評価の項目に、読書に関するものを取り込んで欲しい。	・基本的な生活においては、良い結果が出ている。夏休み後の生活習慣が乱れやすいので2学期の啓発も継続強化して行いたい。 ・家庭学習においては、本校児童の基本的課題であり昨年度からの取り組みが功を奏している。 ・信頼される学校づくりは内容と周知、理解と協力の実践を重ねたい。ホームページの改修にも取り組みたい。 ・ふるさとから学ぶにおいては生活科や総合のテーマに沿った内容と道徳、特活の内容もあり、次年度より指標を2種2回とする。
	（家庭学習の習慣化） マニュアル等を作成し家庭学習の定着を図る。	【成果指標】 宿題等、家庭で毎日欠かさず学習するように努める。	毎日取り組んでいる子の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート結果（7月）91.9%（12月）91, 3% 強化週間結果（2月）98% 宿題中心の家庭学習は十分定着。2年以上の自学ノート毎日1ページも定着。	A		
	（信頼される学校づくり） 学校での教育活動をより多く知ってもらうように学校公開などの取り組みをする。	【成果指標】 学校の教育活動を知ってもらう取り組みを5種類以上行う。	学校の教育活動を知ってもらう取り組みが A: 6種類以上行った B: 5種類行った C: 4種類行った D: 3種類以下しか行えなかった	・授業参観 ・校長だより ・PTA広報 ・学級だより ・学校説明会	B		
	（ふるさとから学ぶ） 総合的な学習、体験学習をおこなふるさとの自然・文化・人々に学び、ふるさとに愛着を持つ子を育てる。	【努力指標】 ふるさとや地域の素材を学習材にした体験活動をどの学年も2回以上行う。	ふるさとから学ぶ体験活動を A: 3回以上行った B: 2回行った C: 1回行った D: できなかった	・5年稲作体験（田植え）（秋に稲刈りを予定） ・4年竹の子掘り・竹の子料理 ・3年ギョウジョウ飼育観察 ・低学年ふるさと探検	B		